

# 町田市第二次野津田公園整備基本計画

## 【概要版】



2014年5月  
町田市



# 町田市第二次野津田公園整備基本計画

— 概要版 —

2014年5月

発行:町田市/編集:町田市都市づくり部公園緑地課  
〒194-8520 東京都町田市森野2丁目2番地22

刊行番号「14-5」

# 1. 野津田公園整備計画の変遷

## 1) 野津田公園に関する検討の変遷

野津田公園は、1981年の基本構想、基本計画に基づく整備を行ってきた。以下に現在に至るまでの計画変遷をまとめる。

### (1) 町田都市計画 野津田公園基本構想 (1981年12月)

野津田公園について、本格的な運動施設を備えた大規模な総合公園としての基本構想を町田市都市計画野津田公園建設審議会(以下「審議会」という。)に諮問し、審議会において豊かな緑と地形を最大限に生かし、30万人都市にふさわしい施設を備え、市民の誰もが身近にスポーツ・レクリエーションを楽しむことのできる総合公園を目標とした中間答申を受け、基本構想を策定した。

- ・ 公認、公式の各種スポーツ大会ができる運動施設の整備
- ・ 芝生広場や遊歩道、展望台などの「憩いの場」の整備

### (2) 町田都市計画 野津田公園基本計画 (1987年3月)

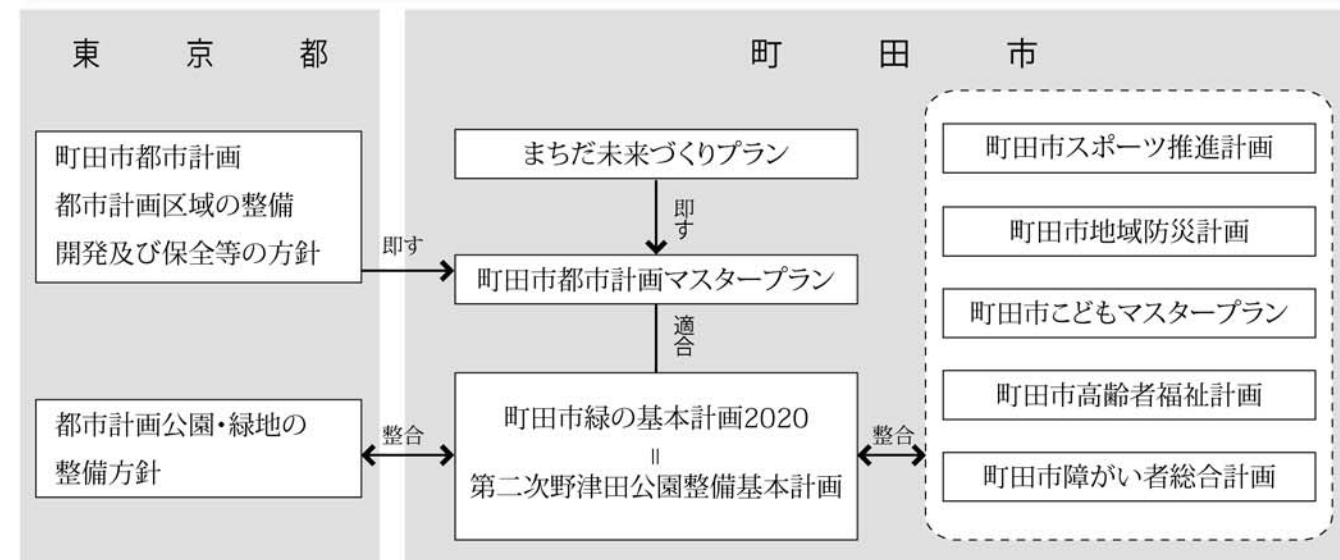
中間答申を受けて策定した「野津田公園基本構想」に基づき1987年3月まで通算19回にわたる審議を重ねた結果、以下の二点を基本方針として審議会の最終答申を受け、基本計画を策定した。

- ・ 多くの市民が渴望している都市規模にふさわしい、スポーツ施設を中心とした「総合公園」とする。
- ・ 緑豊かな自然と調和した公園とする。

### (3) 町田都市計画 野津田公園基本計画 (第2期整備計画) (1993年3月)

1987年3月に取りまとめた基本計画に基づいて整備を進め、1990年10月に第1期整備区域である西側の約16.4haを開園した。その後、野津田公園を取り巻く情勢の変化に伴い、基本計画の考え方を継承した上で第2期整備区域の計画を策定した。

- ・ 総合体育館やテニスコート(成瀬地区)、野球場(鶴川地区)の新設などスポーツ施設整備充実に伴う導入施設の見直し
- ・ 周辺の道路整備等による公園への進入路の見直し
- ・ 公園内の自然や郷土の文化等を生かした公園の整備
- ・ 雑木林の保全 など



## 2) 導入施設の変遷

野津田公園における導入施設計画の変遷と現在の状況について下表に示す。

表 導入施設の変遷

主要施設	野津田公園 基本構想 (1981.12)	野津田公園基本計画 (1987.3)		現在の 施設整備の 現況	
			第2期整備計画 (1993.3)		
運 動 施 設	硬式野球場	19,000㎡ 両翼 92m センター 120m ナイター照明	19,000㎡ 両翼 92m センター 120m ナイター照明	—	—
	軟式野球場	14,000㎡ 両翼 86.9m センター 105m	14,000㎡ 両翼 86.9m センター 105m	硬式野球場へ変更 19,000㎡ 両翼 92m センター 120m ナイター照明	8,500㎡ 両翼 80m センター 90m ナイターなし
	ボウフルト	5,500㎡ ゲートボールと兼用	5,500㎡ ゲートボールと兼用	5,500㎡ ゲートボールと兼用	—
	陸上競技場	23,000㎡ サッカー場兼用	23,000㎡ サッカー場兼用	23,000㎡ サッカー場兼用	30,000㎡ Jリーグ対応 1万人収容スタンド 第三種公認陸上競技場
	テニスコート	10,000㎡ 10面 一部ナイター照明 クラブハウス	10,000㎡ 10面 一部ナイター照明 クラブハウス	—	3面 砂入り人工芝
	体育館	5,600㎡ 武道場も併用できる よう計画する。 管理事務所を含む。	5,600㎡ 武道場も併用できる よう計画する。 管理事務所を含む。	5,600㎡ 武道場も併用できる よう計画する。 管理事務所を含む。	—
	広サ 場イ クル	自転車練習コーナー としての利用	自転車練習コーナー としての利用	—	—
	プ ア ル ミ リ ー	2,500㎡	—	—	—
修 景 施 設	モ メ ー ル ン	長さ 220m, 幅 70m	長さ 220m, 幅 70m	メインモールから 上の原広場へ変更	メインモールから 上の原広場へ変更
	調 整 池	一部は修景池 1,000 t/ha 軟式野球場、駐車場 兼用	一部は修景池 1,000 t/ha 軟式野球場、駐車場 兼用	一部は修景池 1,000 t/ha 軟式野球場、駐車場 兼用	一部は修景池、 園地 1,000 t/ha
便 益 施 設	駐 車 場	約1,000台を目標と し、障がい者専用 10台とする。	約1,000台を目標と し、障がい者専用 10台とする。	約1,000台を目標と し、障がい者専用 10台とする。	626台

## 2. 計画課題の整理・将来像・計画目標

### ■ 計画課題の整理

- A スポーツ活動**
  - ① 競技スポーツから健康スポーツまでスポーツ活動の拠点としての活用方法の検討
  - ② 誰でも気楽に楽しめるスポーツができる施設等、スポーツ団体、市民要望に基づく導入施設の検討
  - ③ 地域貢献活動を視野に入れた活動空間の設定
- B 観光・レクリエーション**
  - ① 周辺の地域資源との連携を踏まえた公園の施設と動線の設定
  - ② 利用者が集い、飲食や語りを楽しむ交流の場の創出
  - ③ レストランなどが出店したくなるような魅力ある公園づくり
- C 自然環境の保全・活用**
  - ① 現在あるスポーツ施設のエリアと自然環境を残すエリアの区分の見直し
  - ② 自然景観の保全策を踏まえた整備と管理の検討
  - ③ 現況の自然環境把握と目標とする植生区分検討
- D 防災・避難**
  - ① 防災拠点としてのオープンスペース設定
  - ② 緊急輸送路、啓開道路からの物資ルートと避難ルートの検討
- E 交通・アクセス**
  - ① 公園へのアクセス方法の検討
  - ② 来園者(障がい者等)が利用可能な公園内のレクリエーション動線、バリアフリー動線の設定
  - ③ 利用者の利便性を考慮した駐車場計画
- F マネジメント**
  - ① ボランティア団体(活動への参加者)の拡充、活動の多様化への支援策
  - ② ボランティアへの参加者を増やすための情報発信機能の検討
  - ③ 経費縮減の視点と合わせた古民家の再生
  - ④ 官民で連携し、協働運営体制を継続するための仕組みやPDCAサイクルによる管理運営の仕組みづくり
  - ⑤ 運営協議会の機能や役割の明確化

### ■ 将来像

自然の中で楽しむ総合スポーツパーク

### ■ 計画目標

- 競技スポーツから健康スポーツまで幅広い活動が楽しめる公園づくり
- 多様なレクリエーション活動が楽しめ、交流が広がる公園づくり
- 自然とのふれあい活動が楽しめる公園づくり
- 大規模災害発生時の住民避難や救援活動の拠点機能を備えた公園づくり
- 交通の利便性とバリアフリーに対応した公園づくり
- 協働による公園づくり

### ■ 整備方針

- ① ホームタウンチームの活動を中心とする様々なスポーツイベントに対応する空間を整備する。
  - ② 地域の子どもやクラブチームなどが様々なスポーツ活動を楽しむ空間を整備する。
  - ③ 個人やグループが様々な健康スポーツを楽しむ計画とする。
  - ④ 健康維持の基本である、「歩き」が楽しめる散策路を整備する。
  - ⑤ 健常者だけでなく、高齢者や障がい者も楽しむための施設整備にも十分配慮する。
  - ⑥ 利用者の健康増進につながる情報や専門家の指導などが受けられる機能を備える。
- ① 各種のスポーツイベントなどが展開される、観光・レクリエーションの拠点空間を整備する。
  - ② 里山の環境を活かした、散策、自然とのふれあい、バトウォッチングなどが楽しめる計画とする。
  - ③ 利用者の集い、飲食・語り・交流などのレクリエーション活動が楽しめる場を整備する。
  - ④ 四季の花(レンゲ・ナノハナ・サクラ・コスモスなど)が楽しめる花の名所づくりを行う。
  - ⑤ ばら広場のより効果的な活用方法を検討し、魅力ある空間として計画する。
- ① 公園内の自然環境について、目標植生を設定し、多様性のある里山の自然環境を守り・育てる。
  - ② 動物についても目標種を設定し北部丘陵の生き物ネットワーク形成の拠点にふさわしい自然環境を守り・育てる。
  - ③ 北部丘陵や野津田の豊かな自然、文化を紹介する情報発信の機能を持たせる。
- ① 災害時における避難場所を確保する。
  - ② 災害時の救援部隊の活動スペース及び、ヘリコプターの緊急離着陸場等にも利用できるスペースを確保する。
  - ③ 一時的避難生活にも活用できるスペースを確保する。
  - ④ 周辺道路と公園を結ぶ、安全性の高い避難路を整備する。
  - ⑤ 災害時のスムーズな人や物資の移動を考慮した動線を計画する。
  - ⑥ 公園外周部の既存樹林を、緩衝機能を有する樹林として保全する。
- ① 公園の顔としての入口を整備し、駐車スペースを確保する。
  - ② 芝溝街道からのアクセスルートを整備する。
  - ③ シャトルバスの運行拡充やパーク・アンド・バスライドの導入など、自家用車利用の抑制につながる方策について検討する。
  - ④ 車椅子や高齢者でも安全で快適に散策できるバリアフリールートを確認するとともに公園内を回遊できる散策ルートやウォーキングルートなどを整備する。
- ① 官民で連携し、協働運営体制を継続していくための仕組みやPDCAサイクルによる管理運営の仕組みを構築する。
  - ② 利用者に満足度を与えるための、公園における魅力ある利用プログラムを提供する。

### 3. ゾーニング計画

野津田公園は進入路の東側と西側で大きな違いが見られる。西側は、陸上競技場等の整備により、地形の大規模な改変が認められるが、東側は尾根と谷戸が入り組んだ変化に富んだ自然地形と豊かな緑が残っている。ゾーニング計画は、このような野津田公園の特性と前述した計画テーマ（将来像）を踏まえ、それぞれの空間構成を活かした4つのゾーンを設定し、野津田公園の土地利用計画を方向づけるものとする。

#### 1) パークセンターゾーン

##### ■ 現況特性

野津田公園の中央部は、桜並木が続く進入路の突き当たりに、芝生広場や駐車場の広い平坦面が広がるとともに、駐車場の東側には樹林の緑に囲まれた比較的広い芝生の緩斜面が連続している。

##### ■ ゾーンの位置づけ

本ゾーンは、この地形的特性と公園のメインアプローチを受ける「入口」として、また公園の「中心」として、来園者のための案内・交流・休憩機能と家族連れや日常利用のための多様なレクリエーション機能および公園全体の管理機能を集約する「パークセンターゾーン」として位置づける。

##### ■ ゾーンの見え方

ゾーンを構成する空間は、既存の桜並木に導かれて入る玄関口としての広い「もてなし」の空間を設定し、野津田公園の緑を背景に空間を魅力づける花や家族が手軽に楽しめる施設で迎えるものとする。また、ゾーン南側に隣接する畑地は、その平坦な広がり公園の貴重な広場空間となるため、公園区域に取り込んで多目的に利用できる広場とする。

#### 2) 競技スポーツゾーン

##### ■ 現況特性

公園の西側は、第三種公認陸上競技場を中心に中央駐車場や芝生広場、多目的広場などが整備され、空間的にはまとまった施設とその周りの斜面緑地で構成されている。またその北側には、ばら園のある広い谷戸が隣接する。

##### ■ ゾーンの位置づけ

本ゾーンは、第三種公認陸上競技場を中心に、既存の広場や施設を活かした「する、観る、支える」スポーツの拠点ゾーンとして位置づける。

##### ■ ゾーンの見え方

ゾーン構成は、陸上競技場に隣接する多目的広場や芝生広場の造成平坦面に、体育館やイベント広場を、ばら園とその東側に続く広い緩斜面には、テニスコート・多目的グラウンドなどの大規模な競技施設の整備を図り、パークセンターゾーンと連携して多くの観客や利用者を迎え入れる空間とする。

#### 3) レクリエーションスポーツゾーン

##### ■ 現況特性

公園の東側は、既存の野球場や上の原グラウンドが緑の斜面に囲まれた谷戸地形の中に整備されており、その周りは「みずき広場」などの草地の緩斜面や比較的樹林密度の低い森が点在する。

##### ■ ゾーンの位置づけ

本ゾーンは、これらの既存施設や自然環境を活かしながら、自然の中で楽しめる日常的なスポーツの場として位置づける。

##### ■ ゾーンの見え方

ゾーンを構成する空間と導入施設は、既存の野球場やグラウンドの他は、自然地形や樹林、草地を活かした規模の小さな施設やウォーキングなどのコースで構成し、既存の自然と一体となる利用空間を目指す。

#### 4) 人と緑のふれあいゾーン

##### ■ 現況特性

上の原グラウンドの谷戸部とその両側の斜面は、草地や雑木林の多様な自然が展開する里山的な環境が残る。

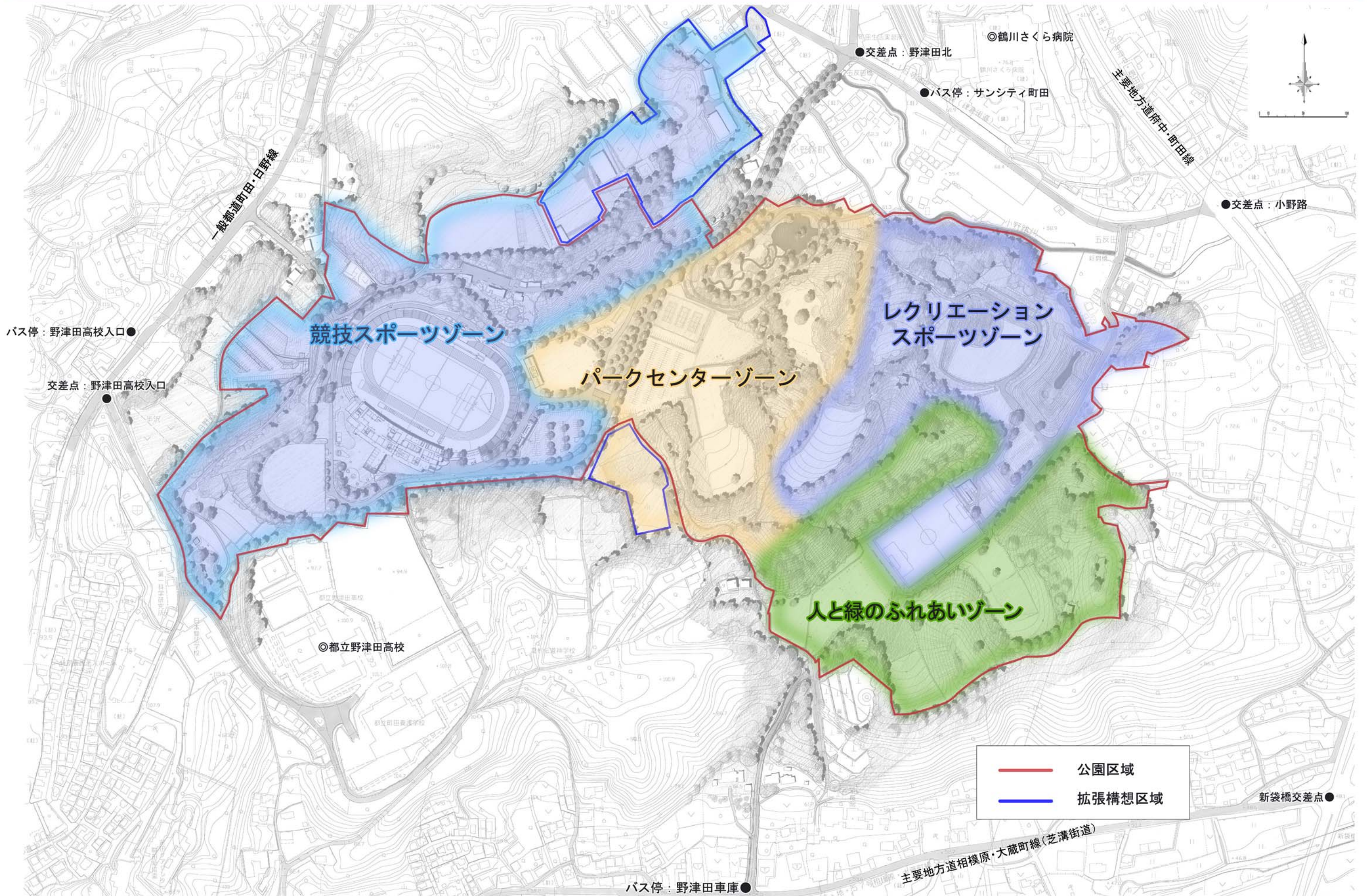
##### ■ ゾーンの位置づけ

上の原はらっぱや雑木林の斜面は、自然観察や散策・子どもの自然遊びなど市民が公園の自然にふれあえる拠点ゾーンとして位置づける。

##### ■ ゾーンの見え方

ゾーンの導入施設は、市民の利用や活動のための最小限の管理・便益施設にとどめ、既存の散策路や子ども遊び場として有効活用を図るものとする。

## 4. ゾーニング図



## 5. 基本計画の策定-1

計画にあたっては、公園の現況施設の整備状況と周辺区域を含めた地形・植生などの自然特性を考慮しながら、自然環境や空間構成に整合した施設の選定と具体的な配置計画を行うものとする。また、主要導入施設の配置は、ゾーニング計画で設定した空間の考え方を踏まえ、各ゾーンの空間構成にふさわしい施設内容、構成とする。以下に各ゾーンにおける主要施設整備の考え方を示す。

### ■ 施設配置の概要

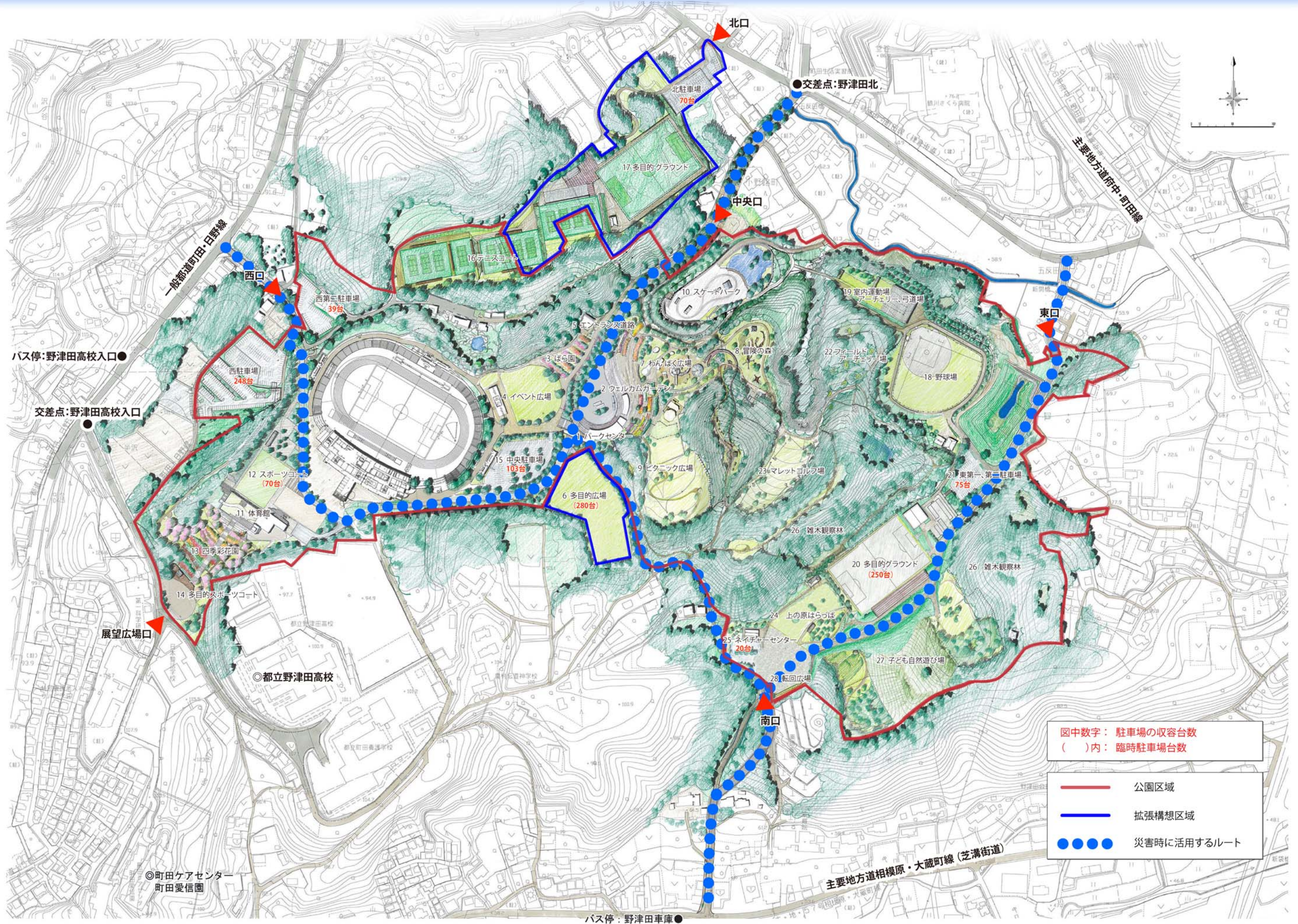
ゾーン名	主要施設	規模	単位	計画概要	備考
パークセンターゾーン	1. パークセンター	1,500	m <sup>2</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>野津田公園のメイン入口正面に位置するインフォメーション・管理・交流機能を有する施設。公園利用者への案内や公園を紹介するギャラリー・研修室などの他、カフェや売店・休憩コーナーを併設する。</li> <li>屋上は、四季折々の花を楽しむ「花のガーデン」とし、イベント広場とブリッジで連絡する。</li> </ul>	
	2. ウェルカムガーデン（ばら園）	10,000	m <sup>2</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>パークセンターとバスロータリー周辺に広がる公園の入口広場。広場内とその周辺には、ばら広場から移設したばら園が空間の流れに沿って帯状に展開し、ばらの香りと彩りが公園利用者を迎える。</li> </ul>	ばら園面積： (ウェルカムガーデンのばら園 +ばら園) = 3,800 m <sup>2</sup>
	3. ばら園	1,400	m <sup>2</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>村野常右衛門生家の前庭として、ウェルカムガーデンのばらを提供するばらの育成園を整備する。</li> <li>既存のばら広場と同規模の株数を本ばら園とウェルカムガーデンに集約させて、来園者が最初に目につくとともに、ダイナミックな花空間を印象づけるものとする。</li> </ul>	
	4. イベント広場	4,300	m <sup>2</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>既設の芝生広場を存続させて、芝生のイベント広場として位置づける。通常はばら園に面した休憩広場として利用するが、陸上競技場やJリーグの試合時には観客のエントランス広場や関連イベントの場として利用する。</li> </ul>	
	5. エントランス道路	W=20	m	<ul style="list-style-type: none"> <li>桜並木の歩道部を改修し、新しい公園の進入路にふさわしい道空間を整備する。エントランス広場の突き当りは、Jリーグの試合時には、路線バスの乗降場のあるロータリー（連節バス用）とし、一般車両と分離する。</li> </ul>	
	6. 多目的広場	8,500	m <sup>2</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>エントランス広場の南側に広がる畑地を公園に取り込み、平坦な地形を活かした多目的広場として整備する。</li> <li>大会時には、臨時駐車場として利用する。</li> </ul>	臨時駐車場-1：280台
	7. わんぱく広場	3,800	m <sup>2</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>エントランス広場東側の平場に、複合遊具やふわふわドームなどを配置した子ども達の遊び場を整備する。</li> <li>遊具周辺は、子どもを見守る木陰やベンチ、あずまやなどの休憩施設を配置する。</li> </ul>	複合遊具は既設遊具を移設、増設
	8. 冒険の森	4,000	m <sup>2</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>わんぱく広場の東側の緩斜面にはアスレチック遊具や健康運動遊具を、南側の丘陵地の林間には山頂から滑り降りるローラー滑り台などを整備する。わんぱく広場と連携して、家族で体を動かしながら楽しめる場とする。</li> </ul>	
	9. ピクニック広場	11,000	m <sup>2</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>わんぱく広場南側の広い谷戸部（草地）を活用して、バーベキューやピクニックができる広場とする。谷戸の入口部は、小規模のふれあい動物園を整備し、背景の広場とわんぱく広場の中継地とする。</li> </ul>	
	10. スケートパーク	5,000	m <sup>2</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>進入路に隣接する雨水調整池の一部は、その窪地状の独立した空間形状を活かしながら、家族で楽しむ、インラインスケート、スケートボード、BMX等のニュースポーツを行える施設を取り入れる。</li> </ul>	
競技スポーツゾーン	11. 体育館	1,800	m <sup>2</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>陸上競技場西側の多目的広場に、室内競技用の体育館を整備する。規模はバレーボールコート2面、バスケットボール1面がとれる45m×25mのアリーナとする他、これに隣接してシャワー・更衣室のある管理棟を併設する。</li> <li>屋上は、背後の四季彩花園に直接アクセスできる屋上緑化の庭とする。</li> </ul>	管理用駐車場：15台 西駐車場：248台 西第二駐車場：39台
	12. スポーツコート	5,200	m <sup>2</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>体育館前は40m×60mの芝生と、25m×60mの舗装のスポーツコートを整備する。</li> <li>芝コートはフットサルやゲートボールなどができる場とし、舗装コートは子どもを中心とした自転車乗り場等とする他、Jリーグの試合時には70台程度の臨時駐車場とする。</li> </ul>	臨時駐車場-2：70台
	13. 四季彩花園	4,800	m <sup>2</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>体育館東側の造成法面に体育館と多目的スポーツコートを結ぶ階段を整備するとともに、北側回遊園路からのスロープをバリアフリーの基準に沿った斜路に改修する。</li> <li>法面上は四季折々の花やかん木を追加し、法面全体に彩りを添える。</li> </ul>	
	14. 多目的スポーツコート	2,000	m <sup>2</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>展望広場の利用活性化を図るために、中央の植栽地と園路を一体化した舗装広場に改修する。近隣の学校、事業所等の身近な運動場所としてスリーオンスリーなどができるようにするとともに、路線バスの待機場としての利用も検討する。</li> </ul>	
	15. 中央駐車場	4,000	m <sup>2</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>既設駐車場の舗装、植栽を改修する。Jリーグ試合時には、イベント広場として活用する。</li> </ul>	中央駐車場：103台
	16. テニスコート	12	面	<ul style="list-style-type: none"> <li>現況のばら広場とその東側を拡張して、公式試合への対応も可能なテニスコート12面（内1面はセンターコート）を整備する。付帯施設としては観客席、夜間照明、管理棟、倉庫、壁打ちテニスなどを整備する。</li> <li>規模的には、サッカー場も含めてクラブハウスが必要となるので小野路屋敷を改修して対応する。</li> </ul>	
	17. 多目的グラウンド	8,000	m <sup>2</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>テニスコートの東側に上の原グラウンドと同規模のサッカー等のできる人工芝のグラウンドを整備する。</li> <li>付帯施設は、防球ネット・夜間照明・スコアボード・観客席など公式試合への対応も考慮する。</li> </ul>	北駐車場：70台

## 5. 基本計画の策定-2

### ■ 施設配置の概要

ゾーン名	主要施設	規模	単位	計 画 概 要	備 考
レ ク リ エ ー シ ョ ン ス ポ ー ツ ゾ ー ン	18. 野球場	12,000	m <sup>2</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>既設野球場を活かし、夜間照明や管理棟を整備して野球場の機能向上を図る。なお、管理棟やトイレは野球場北側に隣接する屋根付運動場の中に併設する。</li> </ul>	
	19. 屋根付運動場、アーチェリー・弓道場	3,000	m <sup>2</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>野球場北側とその周辺に、30m級と90m級のアーチェリー・弓道ができる人工芝コートを整備し、射場を含めた35m四方をテント等の屋根で覆う。</li> <li>屋根付運動場は、雨天時のトレーニングやキャッチボール、フットサルなどの練習にも使用できるものとする。</li> </ul>	屋根付運動場：1,250 m <sup>2</sup>
	20. 多目的グラウンド	8,000	m <sup>2</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>既存の「上の原グラウンド」は、市民のサッカー練習やスポーツ広場として親しまれているため、観客席やクラブハウスを整備しスポーツ環境を充実させる。</li> <li>Jリーグ試合時には、臨時駐車場として機能させることも可能とする。</li> </ul>	臨時駐車場-3：250 台
	21. 東第一駐車場、第二駐車場	3,500	m <sup>2</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>多目的グラウンドと野球場の間に、約75台収容の駐車場を整備する。一部は既設駐車場を活かしたものとし、東第二駐車場は野球場横の空地に拡張整備する。</li> </ul>	東第一駐車場：50 台 東第二駐車場：25 台
	22. フィールドアーチェリー場	1,260	m <sup>2</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>野球場西側緩斜面の疎林内に、林間のフィールドアーチェリーを設定する。コースは、競技時に的を仮設的に設置することで対応する。</li> <li>標準コース＝12コース×2ラウンド、コース長：10～60m(5m刻み)平均35mとしてコース面積＝35m×W3m×12コース＝1,260m<sup>2</sup></li> </ul>	
	23. マレットゴルフ場	1,800	m <sup>2</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>野球場南西側のみずき広場の林縁部に、自然に親しみながら広場周辺をめぐるマレットゴルフコースを設定する。コースは既存地形を活かしながら林縁部を巡るコース設定とし、自然の中で楽しむマレットゴルフ場として位置づける。</li> <li>標準コース：18ホール、コース長：30m、50m、70m(平均50m)としてコース面積＝50m×W2m×18ホール＝1,800m<sup>2</sup></li> </ul>	
人 と 緑 の ふ れ あ い ゾ ー ン	24. 上の原はらっぱ	9,700	m <sup>2</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>上の原の南側に広がる草地を保全し、ボランティアの活動などさまざまな活動の場とする。</li> </ul>	
	25. ネイチャーセンター	150	m <sup>2</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>緑の活動や遊びを通じた自然とのふれあい、市民の交流拠点として、上の原はらっぱの入口にネイチャーセンター(道具の貸し出し、ネイチャーギャラリー、談話室、軽飲食スペース、トイレ等)を置く。</li> <li>ネイチャーセンター前は、20台程度の管理・利用者用駐車場を整備し、南口からの利用者の利便性を図る。</li> </ul>	南口駐車場：20 台
	26. 雑木観察林	24,000	m <sup>2</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>上の原はらっぱ北側斜面に広がる雑木林は、良好なクヌギ・コナラ林(二次林)を形成しているため、既設散策路を活かして、雑木観察林として保全・育成する。</li> <li>雑木観察林は、林床の整理や古木の間伐、密度調整などの管理作業により、将来にわたって良好な二次林を持続させるとともに、上の原はらっぱと連携する多様な自然環境とこれを利用する活動の場として位置づける。</li> </ul>	
	27. 子ども自然遊び場	16,000	m <sup>2</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子ども達が自然を活かして遊べる空間を整備する。</li> </ul>	
	28. 転回広場	2,000	m <sup>2</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大型車の転回広場を整備する。</li> </ul>	

# 6. 第二次野津田公園整備基本計画図





## 7. 計画の実現に向けて

野津田公園をより一層市民に親しまれる公園、利用する公園とするためには、様々な取組が欠かせない。「自然の中で楽しむ総合スポーツパーク」実現のためのマネジメントの考え方について下記に示す。

### ■ マネジメントの目標・方針

野津田公園のマネジメント目標について以下に示す。本計画の実現に向けて、持続的な公園のマネジメントを図るための財源の確保・拡充を図りつつ、計画目標別整備方針に沿ったマネジメント項目について実施することが重要となる。

マネジメント目標：「協働による公園づくり」

計画目標

競技スポーツから健康スポーツまで幅広い活動が楽しめる公園づくり

多様なレクリエーション活動が楽しめ、交流が広がる公園づくり

自然とのふれあい活動が楽しめる公園づくり

大規模災害発生時の住民避難や救援活動の拠点機能を備えた公園づくり

交通の利便性とバリアフリーに対応した公園づくり

マネジメント目標

マネジメント計画の実施

協働による公園づくり

持続的なマネジメントを実現する  
財源の確保・拡充

### ■ 様々な主体による連携の事例

下表に様々な主体との連携による公園のマネジメントに関する事例を整理した。公園のマネジメントにあたっては、特に市民・地域・企業との連携を図ることが重要となる。

<p><b>市民連携【おひさまサンサン事業(つくば市 主催者:つくば市社会福祉協議会)】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市民、障がい者、ボランティア団体が協力してスポーツやレクリエーション活動等を行っている他、イベント運営についても市民等がボランティアとして協力している。</li> <li>近年では、「おひさまサンサン生き生きまつり」として高齢者の事業と同時開催を行っている。</li> </ul>
<p><b>地域連携【公園に子育て施設(新潟県長岡市 千秋が原南公園)】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>冬期の子どもの遊び場を確保するため、信濃川に隣接する地域に千秋が原南公園と全天候型屋根付き施設「子育ての駅千秋」を整備した。</li> <li>子育てについての知識を深めるため、図書館司書、歯科衛生士、言語聴覚士など多彩な講師による「子育て講座」を開催している。</li> </ul>
<p><b>地域連携【健康増進の取組(広島県坂町)】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域内のいくつかの公園とネットワーク化を図り、大学や地元商工会との連携によるウォーキングイベントの運営を行っている。</li> <li>自然体験と心のリフレッシュができるコース10km、ベビーカーでも楽しめるコース2km等がある。</li> </ul>
<p><b>企業連携【川崎フロンターレのまちづくり活動】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>川崎市内の112の小学校の体育の授業にセカンドティーチャーを派遣し、延べ約2万人の子どもたちに指導を行っている</li> <li>シニア層に対しては介護予防という主旨で、フットサル場を活用してさまざまな教室を開講している。</li> </ul>
<p><b>企業連携【兵庫県三木総合防災公園 屋内テニスコート】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>屋内テニスコートにネーミングライツを導入し施設の維持管理費にしている。</li> <li>ネーミングライツ料の一部をテニス振興活動の助成費として確保している。</li> </ul>

### ■ 野津田公園でのプログラム

第二次野津田公園基本計画の実現へ向け、野津田公園での市民・地域・企業との連携によるプログラムの内容を以下に示す。

#### A 市民との連携によるプログラム内容

- まちだサポーターズ等、より多くの市民と連携し、市民スポーツ大会や様々なスポーツイベントの運営を支援する体制づくりやプログラムの実施
- 公園の清掃や植栽活動への協力
- 公園内の樹林、草地における維持管理やモニタリングの協働実施
- 自然観察会や工作教室等の開催
- ネイチャーセンターでの情報発信  
(季節の見どころ写真の募集やガイドボランティアの育成等)
- ばら園での剪定・接ぎ木講習会等の開催
- 公園施設を活用した園芸セラピー講座※の開催

※園芸セラピー:園芸を手段として心身の状態を改善

#### B 地域との連携によるプログラム

- 公園施設の管理状況の把握や浮浪者の居座り防止に向けた公園内の見回りへの協力
- 公園施設等の開放による子育て世代の交流創出
- 小野路地域の散策ポイントとして野津田公園の設定
- 健康ウォーキングイベント等の開催
- 周辺自治会との協働による防災・避難訓練等の実施 など

#### C 企業との連携によるプログラム

- プロサッカー選手によるサッカー教室やイベントの開催
- プロチームのトレーニングコーチやドクター等による市民からの健康相談の受付
- ネーミングライツ導入による公園施設の整備
- 企業による植栽管理や花壇管理

写真1: 長寿社会・健康づくりと公園緑地(1). 公園緑地62(5)

写真2,3:公園緑地事例集. 公園緑地72(5).

写真4: 町田ゼルビアホームページ

写真5: 事務局スタッフによる撮影



写真1: 公園での園芸福祉(大阪府)



写真2: 市民によるばら園の管理(長野県坂城町)



写真3: 公園を活用したウォーキング大会(広島県坂町)



写真4: 町田ゼルビアと子ども達とのスポーツ祭東京2013記念撮影(町田市)



写真5: ネーミングライツの事例(前橋市)

### ■ 今後のスケジュール

計画の実現に当たっては、本計画の将来像である「自然の中で楽しむ総合スポーツパーク」を目指し、ゾーン毎に掲げた施設について段階的に整備を進める。

当面は、総合スポーツパークとしての価値を一層高めるため、2020年に開催予定である東京オリンピック・パラリンピックのキャンプ地招致を目指し、既存の陸上競技場と併せて必要な人工芝の多目的グラウンドの整備と、施設稼働率が85%を超え、人気の高いテニスコートの整備を進める。

## 8. 野津田公園鳥瞰図

